# ２０２３年度

## 大学院文学研究科博士課程前期２年の課程入学試験

## （　秋期・社会人特別選抜　）問題

筆記試験　　日本思想史　　専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

受験記号番号

# ２０２３年度

大学院文学研究科博士課程前期２年の課程入学試験

（秋期・社会人特別選抜）問題

筆記試験（　日本思想史　専攻分野）

一、日本思想史に関し、今後どのように研究したいと考えているか、その計画を記しなさい。（２０行程度）

二、日本思想史研究において、地域（たとえば東北、東アジア）の文化や思想に注目して研究することの意義を論じなさい。（２０行程度）

三、次の文章をわかりやすい現代語に直しなさい。（２０行程度）

◉天地若し人の手に創造せられたるものならば、天地間の機は人の思ふが儘に之を制することを得て、秩序整然因果歴然たるものあるべきも、天地は人の創造せし所に非ざるが故に、其間に起り來る事物の動靜、必ず人の欲するが如くならずして、其變往々不測に出づ、人は此が身外に存ずるとして觀る時之を偶會といひ、其自からの頭上に及ぶ時之を運命といふ、此の偶會と運命とを、人は有り得可からざるものゝ偶々にして有る者なるが如く信ずれども、而れども之を天地の上より謂ば、偶會と運命とが即ち其常道にして、所謂秩序と因果との整一は、人が其意識の上に萬物を綜合し、其の知覺に映じ來る時處の關係を定むるより起る主觀的幻像に過ぎざるやも、未だ知る可からず、然れども、樂屋の毛臑を見ざる限り、芝居の姫君は美しき者にして、舞臺の上に之を美しと見るが芝居に處する途ならば、天地の樂屋を覗かざる、亦處世安心の途ならむ、飽く迄も偶會と運命を罕有の事偶存の事と信ずるが、即ち人の詮也。

（田岡嶺雲「潜夫妄語」による）

| 成績 |
| --- |
| |

1/5

| 受験記号番号 | |
|---|---|

| 受験記号番号 | |
|---|---|

| 受験記号番号 | |
|---|---|

| 受験記号番号 | |
|---|---|